

令和2年度 施設評価表

認定こども園般若野保育園

1.本園の理念、教育・保育目標

◎子ども1人1人を大切に、保護者から信頼され地域に愛される教育・保育をめざす
 ○未来を担う子どもたちの豊かな人間性を育てる
 ・心身ともに健康な子どもを育てる ・思いやりのある子どもを育てる
 ・自分で考え行動する子どもを育てる

2.本年度に取り組む重点事項

職員体制がかわったこと(2クラスとも若手職員が主となる)、3歳以上児・3歳未満児の2クラス編成2年目であることから、
 ◎職員のチームワークづくり
 ◎幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解し、異年齢児混合クラスにおける子ども主体の教育・保育について学び合う

3.評価項目の達成及び取り組み内容と評価

| 評価項目 | 取組内容 | 取組状況 | 評価 | 来年度に向けての課題 |
|---------------|---|---|----|--|
| 教育・保育課程 | 教育・保育課程の編成・実施に関して職員間の共通理解をはかる。 | 職員会議等で教育・保育課程の確認をしている。 | B | 短時間勤務職員にも会議等の全員参加方法を考え浸透させていく。 |
| 発達過程に応じた教育・保育 | 未満児クラス・以上児クラスの運営の成果と課題を報告する。 | 毎月、運営成果と課題を報告し合い、運営の改善を目指した。 | B | 環境構成の工夫・発達段階の理解を深めていく。 |
| 研修体制 | 教育・保育の質向上のために、園内研修を実施し、園外研修にも積極的に参加する。 | 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえた内容を議題として毎月行った。また、園外研修にも参加し教育・保育の質を高める努力をした。 | A | 継続する。経験年数・役職に応じた研修を引き続き受講していく。ZOOMを使用した研修方法を取り入れ、研鑽を重ねていく。 |
| 特別支援教育 | 特別支援教育の理解を深め、該当児に個別の配慮をしながら、発達の支援をする。専門機関との密な連携を図る。家庭との連携を図る。 | 連携機関の巡回や研修を園内で行い、該当児の発達を支援する対応を学んだ。該当児の対応については、連携機関・家庭・園との協働により個別の配慮ができるようにした。 | A | 継続する。 |
| 小学校接続 | 小学校へのスムーズな接続が図れるような工夫や取り組みを積極的に行う。幼保小連携研修に参加する。 | 今年度は取り組みなし | 無 | 新型コロナウイルス感染症収束後、地区の学校・保育園で話し合い、連携を深めていく。 |
| 健康・安全管理 | 職員の健康・安全管理の意識を強化する。災害発生時の安全確保のための通報・避難・保護の方法手段を共有し、訓練を行う。食育計画の作成と実践を行う。 | 職員間で連携しながら、衛生管理の徹底を心がけた。感染症に関しては早期対応を行い、即情報を開示し、保護者に伝えた。食育計画に基づき進めている。 | B | 継続する。安心安全な食の提供を行うための基礎知識を学ぶ |
| 職員間の連携 | 担任外保育教諭間の連携、他種職員との連携を積極的に行う。 | 行事や日々の教育・保育を通して協働体制を取っている。職員会議等でも話し合いを通して意思疎通を図っている。 | C | 意思疎通が不十分なところがみられたので、連携の仕方、伝え方の見直しを図る。 |
| 保護者との連携 | 個人懇談や送迎時での口頭伝達、日々の連絡帳を通してコミュニケーションを図る。行事や日々の子どもの活動の様子を写真などで伝える。 | 個人懇談や送迎時での口頭伝達等で悩みを聞き、共有しながら子どもの成長に繋がるよう努力をしている。ドキュメンテーション等を玄関に掲示し、教育・保育の取り組みを知らせている。 | B | コロナ禍において規制された状況での保護者とのコミュニケーションの取り方を工夫していく。 |
| 地域との連携 | 地域にある老人ホームや障害者支援施設との交流を図る。未就園児対象のふれあいひろばを行う。HP・はがきなどを利用して、行事の案内など園の情報発信を行う。 | 施設との交流は無し 園に遊びに来てもらい、担当職員と一緒に遊んだり、子育ての悩みを聞いたりしている。毎月HP更新を行い情報開示している。 | B | 新型コロナウイルス感染症が収束した後に交流会を行い、親睦を深める。 継続する。 |

A:優れている

B:普通

C:やや努力が必要

D:努力が必要